

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
「自ら考え、ともに伸びていく、心豊かな子どもを育てる」 (めざす児童像) ・よく聞き、自分で考える子 ・話し合い、力を合わせる子 ・最後までやりぬく子	「規範意識の徹底と学び合いの推進」 ○基本的な生活習慣の定着を図る。 ○基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ○自分を大切にし、友だちを思いやる心を育てるとともに、支え合う集団を育てる。 ○家庭や地域、保育園、中学校との連携を密にし、その教育力を指導に生かす。 <年間を通じての取組> ○進んであいさつをしよう。 ○チャイムスタートをしよう。 ○だまってそうじをしよう。 ○目で話を聞



調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 <全国> ○国語A・算数Aでは、県平均との差が昨年度より縮まった。 ○国語B・算数Bでは、県平均を下回っている。 ○国語Aでは、漢字の読みは、概ね定着しつつある。書きは、県平均を下回り、課題がある。 (例)読みの問題:事務室:本校93.2%(県87.2%) 指示:本校97.3%(県95.0%) 書きの問題:たいしよ:本校37.8%(県39.4%) きぼう:本校81.1%(県83.3%) ○手紙の後付けに必要な日付、署名、宛名の位置を選択する問題、古文を音読して気がついたことの説明を選択する問題、県平均を下回っている。 ○算数Aでは、基礎的な計算で県平均との差が縮まった。 (例)6+0.5×2 :本校93.2%(県78.4%) 10.3+4:本校67.6%(県77.0%) 5÷9(分数):本校89.2%(県77.0%) ○図形・割合の問題において県平均を下回っている。 <県(3~5年)> ○各学年、国語・算数ともに県平均を下回った。 ○〈基礎〉(知識・理解を問う問題)は、同程度で着実な成果があらわれている。(活用)(思考力・表現力)は下回り、課題がある。 ○読み取り問題 記述問題は課題が確る。	【学習状況調査の結果】 ○朝食を毎日食べている児童の割合が県平均に比べて低い。 ○自分には、よいところがあると思う児童の割合が県平均に比べて低い。 →友達や教師、家族から認められる機会を増やし、自己有用感を高める必要がある。 ○学校に行くのは楽しい、友達に会うのが楽しいと感じる児童が県平均に比べてかなり高い。 ○先生が自分のよいところを認めてくれると感じている児童がかなり多い。 <テレビ等の視聴時間(平日)> ○テレビ、ゲームなどの時間が県平均よりも長い。 <家庭学習の時間(平日)> ○1日当たりの学習時間が県平均より短い。 →宿題の量・質を検討することが必要である。→自主学習のレベルアップを図る。 <読書時間(平日)> ○1日当たりの読書時間が短い。 <あいさつ・5年県調査より> ○学校で先生にあいさつをする、家の人にあいさつをしている児童の割合が高い。



成果	課題
<成果> ○漢字検定を全校で取り組み、漢字の読み書きが定着した。また、今年度から、高野タイム(朝の活動)で新出漢字や漢字テストを継続的に行い、習熟を図ることができた。 ○放課後の補充学習を週2回行い、家庭学習の習慣をつけることができた。 ○年4回計算くんぐん週間(2週間)を設け、学校全体で取り組むことで基本的な計算力を伸ばすことができた。	<課題> ○国語・算数とも各単元の基礎的な内容が理解できていない。(定着できていない。) →当該学年で必ず定着させる学習内容の手立と前学年までの学習内容を復習する時間の確保が必要である。 ○長い文章や問題文を読むことができていない。(慣れていない。) →過去問に挑戦する機会を確保する。 ○国語のことわざ、主語・述語の関係、読み取りの問題で依然として課題がある。 ○算数では、依然として図形、割合の分野に課題がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
(授業改善) ①高野小授業規律の徹底 ②高野小学学習スタンダード徹底	①②1ヶ月毎に振り返り、 修正・改善	全学級、100%	①チャイムスタート・あいさつ・話し方・聞き方・姿勢 ②めあてとまとめ・書く活動⇒説明・定着(何を学んだのかははっきりする授業)	①チャイムスタート・あいさつは全学級でできた。話の聴き方は全校で取り組み、成果を上げた。 ②めあてとまとめは、全学級でできた。説明する時間の確保が今一歩である。	A	①チャイムスタート・あいさつは引き続き、全学級でできた。(100%) ②めあてとまとめは、全学級でできた。説明する時間の確保も意識してできた。	A	①話の聞き方、話し方は、4月から全校で共通実践を行う。校内ルールを年度当初に示し、1ヶ月単位で確認・修正を加えながらさらなるレベルアップを図りたい。 ②説明する時間を含めた授業デザインを重点課題とする。
(国語) ①高野小漢字テスト実施(全校) ②漢字検定の取組(全校)	①上⇒11月 下⇒2月 ②問題集を購入し、習熟⇒2月希望者受検	①各学級正答率90%めざす ②全学級、問題集を実施⇒当該学年の漢字の総合力をつける	①読み50問、書き50問⇒各学級正答率90% ②毎週末、1回分ずつ週末課題として実施	①国語A(漢字の読み書き)が県平均を超えるため、達成率90%めざし、全校で徹底して取り組めた。 ②漢字検定は全校で週末課題として取り組めた。2月に希望者受検予定。	S	①高野小漢字テスト・下ともに全校で取り組み、成果を上げた。 ②漢字検定は漢字学習のゴールとして意欲的に取り組めた。	S	①高野タイム(朝の学習)は、モジュール学習(国語の授業時間)としてカウントする。漢字・言葉の学習を見直しをもって行う。 ②来年度も、漢字検定に引き続き取り組む。
(算数) ①問題データベースを高野タイムで全学年活用 ②算数の授業の中に適応問題	①各単元終了後、問題データベースを実施 ②毎時間、適応問題に取り組み、定着を図る	①②全学級、100%	①各単元終了後、問題データベースに取り組み、復習する ②毎時間、5分程度適応問題に取り組み、習熟を	①問題データベースは、各単元終了後全校で取り組めた。 ②算数の授業の中に適応問題を組み込むことができなかった学級もある。適応問題まで含めた授業デザインと時間配分が必要である。	A	①問題データベースは、引き続き、授業や単元終了後、全校で取り組めた。 ②算数の時間、適応問題まで含めた授業デザインが意識してできた。	A	①達成率が低い単元は、家庭学習として何度も問題に挑戦する。解説や間違い直しを徹底する。 ②適応問題まで含めた授業デザインを引き続き意識して行う。

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○チャイムスタート・無言入場・だまってそうじを中心に、規律ある学校づくりをめざす。 ○小中間による授業公開、中学校の先生による出前授業、児童生徒の情報交換を行う。 ○中学校の定期テストに合わせ、メディアコントロール週間を設ける。	○高学年を対象に携帯・スマホの約束作りを参観日や学級懇談で行う。(時間、場所、使い方) ○PTA講演会で全学年を対象に情報モラルについての啓発を行う。 ○PTAと連携して、朝ご飯・メディアコントロール、家庭学習時間確保の取組を行う。